

2026 年度 第 74 回全日本学生弓道選手権大会

インカレ個人戦予選

審判員必携（第 2 版）

（2026 年 6 月 15 日更新）

審判員・地区学生弓道連盟の皆様へ

インカレ個人戦予選は、オンラインで行います。（団体戦は予選より対面にて実施します。）

全国の大学の的中記録を、ミスなく、迅速に処理するために、審判員必携を作成しました。審判員の方は、本必携を事前にご確認ください。また、予選当日は、この必携に従って、予選運営にご協力お願いいたします。ご不明点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

目 次

人	連絡先	- 1 -
人	インカレ個人戦予選審判について	
・	PART 1 個人戦予選 競技規則	- 3 -
・	PART 2 付録：記録用紙記入例	- 5 -
・	PART 3 個人戦予選 競技方法	- 6 -
・	PART 4 個人戦予選審判の流れ	- 9 -
・	PART 5 個人戦予選審判 事前準備	-10-
・	PART 6 個人戦予選審判 競技の進め方	-14-
・	PART 7 個人戦予選審判 記録送信	-18-
・	PART 8 F A Q	-20-
・	PART 9 付録：レコーディングに関する補足	-21-

はじめに

2026 年度全日本学生弓道選手権大会（インカレ大会）は、個人戦予選を事前にオンラインにて実施し、団体戦予選・決勝トーナメント及び個人戦決勝射詰を、神戸グリーンアリーナにて対面で実施します。

この審判員必携は、個人戦予選の審判業務についての内容となっております。インカレ大会個人戦の審判を担当するすべての学校は、この審判員必携を必ずご確認ください

この内容は 2026 年 6 月 15 日現在のものとなります。変更等が生じた場合は、全日学連ウェブサイトにて改訂版をアップロードいたします。ウェブサイトに関しましては、定期的に確認するようお願いいたします。

- 全日学連ウェブサイト
<https://www.pac-mice.jp/zennichi/>
- インカレ個人戦予選の進め方（動画）
<https://youtu.be/HQDqXymQcLw?si=LIVEmDhdJL0RzYfk>

【連盟からのお知らせ】

当連盟では情報伝達手段の一つとして X(旧 Twitter)を導入しております。
ブログの更新や書類のアップなどを随時更新しております。

部活幹部等でアカウントをお持ちの方は、ぜひフォローしていただきますよう、お願い申し上げます。

全日学連公式 X アカウント：http://twitter.com/zennichi_gkr

アカウント QR コード



連絡先

- 全日本学生弓道連盟 事務局
〒102-0091 東京都千代田区飯田橋 2-12-10 日高ビル 2 階
TEL/FAX 03-6910-0792（役員活動時間：毎週月・木 17～20 時）
※活動時間に役員が事務局にいない場合があります。
メール zennichi.kyudo@gmail.com
ご不明点・ご質問・ご要望等は原則、メールでお願いいたします。
予選当日は事務局に役員が待機しておりますので、当日のトラブル等は電話でも対応いたします。
ただし、電話が混み合う可能性も十分に考えられますので、お急ぎでない場合や電話が混み合っている場合は、メールにてご連絡ください。

※緊急の場合、以下の電話番号までご連絡ください。責任者が対応いたします。

緊急連絡先 Tel: 070-4093-0423

PART1 個人戦予選 競技規則

- ① 36 cm星的 射距離 28m 立射
（男子）一次予選 一手一中通過
二次予選 四射皆中通過 → 個人戦決勝出場
（女子）一次予選 四射三中通過
二次予選 一手皆中通過 → 個人戦決勝出場
- ② 時間制限は設けない。
- ③ 全ての競技には Zoom を通して審判員が立ち合い、異議申し立ては審判員に対して行う。審判員は原則、地区学生弓道連盟役員又は第三者加盟校部員が務める。但し、詳細は地区の事情により変更する場合がある。
- ④ 審判員は全ての行射の様子を Zoom でレコーディングすること。
- ⑤ 射場進行は、Zoom を通して審判員が指示を出す。
1. 審判員の「本座にお進みください」の声で、本座に進む。
 2. 審判員の「射位にお入り下さい」の声で、射位に進む。
 3. 大前の胴造りが終了した時点で、審判員は「行射を開始して下さい」の声をかけ、行射を開始する。
- ⑥ 審判員が「行射を開始してください」の声をかける前に取り懸けを行った場合、安全上問題がある行為を行ったとしてその選手を失格とする。
- ⑦ 追い越し発射は、その矢を無効として失中とする。「追い越し発射」とは、大前と 2 的、3 的と 4 的、5 的と落をそれぞれのグループとし、同じグループ内において後ろの選手が前の選手より先に射離すことを意味する（大前の場合は二射目以後 2 的の選手より先に射離すこと、3 的・5 的も同様）。この時、異なるグループ間で引いている矢を揃える必要はない。（三的の初矢が離れる前に大前が二の矢を離しても構わない。追い越しはあくまで同じグループの間で引くべき順番が前後することを指す）
- ⑧ ⑦の記述について、6 人立以外の場合については、大前側より二人ずつでグループを作ることとする。すなわち、5 人立の場合は大前と 2 的、3 的と 4 的がグループとなり、落は一人でグループとなる。（この時、落は原理上追い越しが発生し得ない。）4 人以下の場合も同様とする。
- ⑨ 的中判定は全日本学生弓道連盟規約に基づく。
- ⑩ 男女ともに個人戦予選記録用紙に名前のない者は参加できない。万が一登録したのに名前がない場合は全日学連に連絡すること。
- ⑪ 競技開始 30 分前以降の付矢は禁止する。巻藁の使用は常時認める。

【審判員の役割】

- 全ての競技には審判員が立ち合う。異議申し立ては審判員に対して行われる。
- 競技中及び競技の合間における的の交換は審判員の判断に依る。
- 行射中の的が傾いた時など、行射に支障をきたす事象が発生した場合、審判員は行射を止めることができる。
- 競技開始の合図、記録の管理を行う。不明矢が生じた場合、確認に立ち会う。確認が終わるまで矢を抜かないように注意する。
- 審判員の過失によって競技の進行に重大な支障をきたした場合、全日学連規約に基づいて処分を下す場合がある。
- 競技校から、本審判員必携及びインカレ個人予選マニュアルには記載されていない方法で競技を行いたい旨の申し出を受けた場合は、全日学連に判断を仰ぐこと。

※異議申し立てがなされた際、審判員のみで判断できない内容であれば、競技を一時中断し、緊急連絡先まで速やかにお知らせください。その際、競技校が矢を抜くことがないように注意してください。

インカレ

PART2 付録：記録用紙記入例

第74回 全日本学生弓道選抜大会
正式記録用紙

記録などは全て黒のボールペンで記入してください

〇〇地区	全日学連大学	全日弓道場の数 <u>6</u> の
------	--------	--------------------

No.	選手名	学年	一次予選	通過	二次予選	通過
1	足踏 亮平	4	×	○	×	○
2	綱造 理沙	4	○	○	○	○
3	弓橋 史敬	3	欠			
4	打起 太一	3	○	○	×	○
5	引分 大海	2	×	×	×	×
6	会 星汰	1	○	○	×	○
7	龍 実莉	1	欠			

弓道場名、使用的数を必ず記入してください

全ての二次予選通過者について通過欄に矢印が記入されているか確認してください。さらに用紙下部の「予選最終通過者一覧」に選手番号を記入してください

訂正がある場合、赤色の二重線で消し、正しいものを近くに赤色で書いて訂正してください。絶対に修正器を使わないこと

全ての一次予選通過者について通過欄に矢印が記入されているか確認してください。また通過しなかった選手については何も記入しないでください

欠席者がいる場合は一次予選一本目に必ず「欠」と記載すること

二次予選通過者の選手番号を過不足なく記入してください。ここに記入された記録が正式なものとなります

予選最終通過者一覧（番号を記入）

2, 6

予選最終通過者を確認する1

審判員	氏名	残心 真央 (学連 大学)
	メールアドレス	zennichi.kyudo@gmail.com
	電話番号	090-xxxx-0000

試合結果
送信フォーム



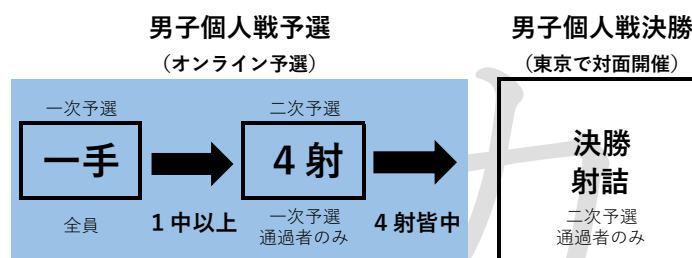
記録用紙は審判員が学連に送信します。
加盟校の筆検は送信して頂く必要ありません。

PART3 個人戦予選 競技方法

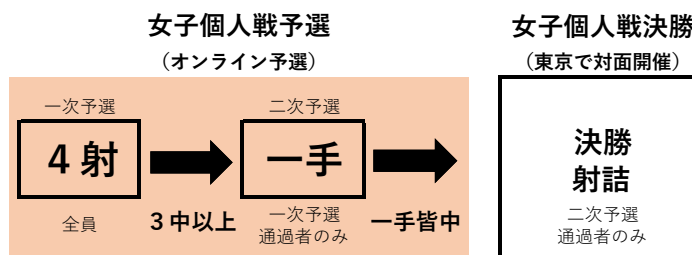
重要 個人戦予選の流れ

- 個人戦予選の流れは以下の通りとなります。

男子	個人戦予選	
	一次予選	二次予選
	各大学すべての選手が【 一手 】引く ・ 1 中以上した選手は二次予選進出となる ・ 一手残念の選手は一次予選敗退となる	一次予選通過者が【 4 射 】引く ・ 4 射皆中の選手は個人戦決勝進出となる ・ 決定退場は行わない (途中で敗退が決定した場合も、4 射すべて引く)



女子	個人戦予選	
	一次予選	二次予選
	各大学すべての選手が【 4 射 】引く ・ 3 中以上した選手は二次予選進出となる ・ 2 中以下の選手は一次予選敗退となる ・ 決定退場は行わない (途中で敗退が決定した場合も、4 射すべて引く)	一次予選通過者が【 一手 】引く ・ 一手皆中の選手は個人戦決勝進出となる ・ 決定退場は行わない (1 本目を外しても、2 本目を引く)



重要：必ず確認してください 個人戦予選の方式について

個人戦予選は以下の方式により競技を実施してください。

また、必要に応じ動画(<https://youtu.be/HQDqXymQcLw?si=LIVEmDHdJL0RzYfk>)を確認し個人戦予選の流れを確認してください。

【的の設置について】

- 原則として、最大 6 的を立てさせてください。
 - Zoom を通して、選手の姿と的が同じ画角に入ることが望ましいですが、不可能な場合は、**行射する選手の姿**が確認できれば問題ありません。
 - 可能な限り多くの選手を映すために、参加校の映像機器の設置場所を適宜移動させてください。
 - 「参加人数が多い」かつ「多くの的を立てられる」大学については、参加校・審判員の取り決めに依り、6 的以上立てても構いません。
 - 参加人数が多い大学については、的数が少ないと個人戦予選に相当な時間が掛かります。可能な限り多くの的を立て、個人戦予選にかかる時間を短縮してください。
 - ただし、選手間の距離が短く、行射に不自由が生じるほどの的数を立てる必要はありません(例：通常 4 的しか立てられない道場に無理やり 6 的立てる必要はありません)。行射に適切な間隔で的を立てさせてください。
 - 判断に迷う場合は、全日学連 (zennichi.kyudo@gmail.com) にお尋ねください。

【行射方法について】

- すべて立射とし、間合いは会打起しとします(会打起し：前の射手の会で打起しを開始すること)。
 - 審判員は、競技校が坐射で行射している場合は、Zoom を通して立射に変更させてください。
- 「行射を開始してください」の合図の前に取り掛けた場合、当該選手を失格とします。
- 行射は原則、1・3・5 的の同時打起しとします。

但し、2 射目以降に関しては追い越し発射とされない範囲において、打ち起こしのタイミングにずれが生じることを認めます。

- 6 人立でない立の場合は、大前から二人ずつでグループを作り、それぞれのグループの前側の人が同時に打ち起こして下さい。すなわち、5 人立の場合は 1,3,5 的の同時打ち起こし、4 人立の場合は 1,3 的の同時打起しです。

【立の組み方について】

- 個人戦予選は、個人戦予選記録用紙に記載されている順番で立を組ませてください。

個人戦予選記録用紙に記載されている順番とは…

全日本学生弓道連盟ウェブサイトに掲載されている参加校別の個人戦予選記録用紙に記載されている順番で立を組むこと。

右図の大学の場合、弓道選手、道場選手、弓手選手、妻手選手…の順番に立を組み、道場的数に応じた立人数にする。例えば、6 的立てられる場合は、弓道選手から大三選手までを個人戦予選 1 立目、星的選手以降の 6 名を個人戦予選 2 立目…とする。

この
順番で
行射する

東京都地区					
NO.	選手名	学年	一次予選	通過	二立
1	弓道 亨	1			
2	道場 牧人	1			
3	弓手 芳樹	1			
4	妻手 涼介	2			
5	取懸 大地	2			
6	大三 真人	2			
7	星的 秀樹	2			
8	行射 響	3			

- 記録用紙に記載されている順番で行射することが難しい場合は、その的を空けて行射することを認めます（例：入部して間もない部員が、安全上、大前で引くことが困難である場合、大前を空けて行射することを認めます）。ただし、その場合は必ず参加校から報告させてください。
- 記録ミスを防ぐために、個人戦予選記録用紙に記載の順番を変えることは認めません。（例：入部して間もない部員を、大前ではなく 2 的で引かせるために、大前の選手と 2 的の選手の立ち位置を交代して個人戦予選を実施することは認めません）。

【審判員について】

- 審判員は Zoom を通して、個人戦予選の行射の様子を監視してください。
- **重要** 個人戦予選では、以下の【例】のように、的中確認を行う前に参加校からの中（○・×）の報告を受けてください。記録報告を通じて、選手の的中を記録用紙に記入してください。

参加校「学連大学男子個人戦一次予選 1 立目

大前：全日一郎選手は○○、式的：全日二郎選手は×○、中：全日三郎選手は××、
落前：全日四郎選手は○×、落：全日五郎選手は××です。」

PART4 個人戦予選審判の流れ

予選の流れをまとめた動画 (<https://youtu.be/HQDqXymQcLw?si=LIVEmDHdJLORzYfk>) を作成しているので、適宜参考にすること。

事前準備

- ・本審判員必携を熟読する。
- ・予選に必要な書類を全日学連ウェブサイトから印刷する。
- ・参加校と連絡を取り、競技方法を確認する。

当日準備

- ・予選が実施できる環境が整備されているかLINE等を通じ確認する。
- ・競技開始30分前までにZoomを開く。（原則Zoomは審判校が開く）

個人戦予選

- ・開始30分前までにzoomに接続する。
- ・行射開始時刻になったらZoomのレコーディングを開始する。
- ・行射前にZoomを通して、出場選手の確認を行う。
- ・別紙「個人戦予選記録用紙記入例」を参照して、記録用紙に的中等を記入する。

記録確認

- ・競技校と記録内容に間違いがないか、相互に確認する。
- ・記録送信フォームから記録を送信する。

審判員と参加校の記録確認完了をもって、個人戦予選が終了となります。
記録は審判員が責任をもって、全日学連に送信すること。

各参加校に記録を送信させないでください。

PART5 個人戦予選審判 事前準備

- 試合実施前日までに、各参加校と連絡を取り、以下の点を確認してください。
 - Zoom の時間制限の関係で、Zoom のつなぎ直しが必要かどうか、確認してください。
 - トラブル発生時のために、参加校の代表と審判員が LINE 等で連絡が取りあえる状態を確保してください。
 - 参加校と連絡を取り、開始時間や的数について、個人戦予選マニュアルに記載の方法で実施できるかどうか確認してください。
- 予選に必要な以下の書類を印刷してください（学連から各地区学連・審判員へ書類は送付しません）。記録用紙は、選手登録締め切り後に全日学連ウェブサイトに掲載されます。

予選のために必ず印刷する書類			
種別	名称	必要な枚数	✓
個人戦予選	個人戦予選記録用紙 (各大学の個人戦予選出場選手全員が表示されています)	1 枚	

- 以下の書類は、すべて全日学連ウェブサイトに掲載されており、予選当日はスマートフォン・パソコン等で閲覧して確認することができます。電波状況が不安定、通信料がかかる、紙媒体のほうが見やすいなど必要に応じて印刷してください。

必要に応じて印刷する書類	
名称	✓
本審判員必携	
インカレ個人戦予選マニュアル	
記録用紙記入例	
全日本学生弓道連盟規約	
的中判定に関する指針（全日本学生弓道連盟規約巻末）	

- 予選当日は書類に加え黒赤のボールペンが必要です。必ず用意してください。また、記録の訂正に修正液・認印等、赤ボールペン以外のものは用いないので用意の必要はありません。

【準備の流れについて】

- 個人戦予選の準備を以下の流れの通り実施してください。

時 間	個人戦予選に参加する大学 (詳細は下記および次ページ以降を参照する)
競技開始時刻 30 分前までに	▪ 付矢を終了する ▪ Zoom に接続する
競技開始時刻 30 分前～ 競技開始時刻	▪ 個人戦予選で使用する的を立てさせる ▪ 射場を映す映像機器、的場を映す映像機器を Zoom に接続させる ▪ Zoom を通して、会場の点検を行う
競技開始時刻	▪ Zoom を通して選手確認を行う（やむを得ない事情を除き、競技開始時刻に遅れた選手の出場は原則認められない） ▪ 競技を開始する

審判員・参加校は競技開始 30 分前までに以下を完了させてください。

- 参加校と Zoom を接続してください。その際、以下の点を確認してください。
 - ☐ Zoom の接続はスムーズに行われているか
接続がうまくいかない、タイムラグが生じるなど、予選の実施に影響が及ぶ可能性がある場合は、必ず行射の様子を録画させてください
 - ☐ Zoom の時間制限の関係で、Zoom をつなぎ直す必要はあるか
- 参加校と取り決めた的数だけの的を立てさせてください。
既に立ててある場合、的替えしても、継続して試合で利用してもどちらでも構いません。
※付矢で使用した的をそのまま継続して利用しても構いません。
※的は綺麗なものを使用する。ビニールの的紙は、的中判断が難しいのでなるべく紙の的紙を使用することが望ましい。

審判員・参加校は、個人戦予選開始までに以下を完了させてください。

- 個人戦予選に登録した選手が全員、個人戦予選記録用紙に記載されているか参加校に確認させてください。
 - 記載されていない場合、全日学連にご連絡ください。登録情報の照合を行います。
 - 参加校に、射場を映す映像機器を一台、的場を映す映像機器を一台用意させ、Zoom に接続させてください。
 - その際、各デバイスは以下の条件を満たすように設置・使用させてください。各場所で一つの映像機器のみでは条件を満たせない場合、複数の映像機器を用いても構いません。
 - ・ 行射前の的の確認開始時点よりの的中確認終了時までの間、常に、射場用映像機器または的場用映像機器のどちらかまたは両方が「全ての的」を映している。(的場側用映像機器は的の確認・的中確認等でしばしば全ての的を映すことが出来なくなるため、射場側用映像機器は常に全ての的を映せるようにしておくことを推奨する)
 - ・ 行射中、射場用映像機器が、常に、「全ての選手」を映している。ただし、画角等の問題でこれが困難な場合、行射中に部員がカメラの画角を調整する、機器を持って移動する等の方法で「現在行射中の選手」を映していれば可とする。
- 接続後、予選開始までに審判員と Zoom 接続状況を確認しておいてください。
- 通信状況が不安定であるなど、Zoom の接続が途切れる可能性がある場合には、Zoom に加えて、行射の様子を録画させるなど、必要な措置を取ってください。
- Zoom を通じて、射場・的場・使用的などに異常がないか確認してください。特に、以下のような点について、点検してください。
 - ☐ 的場に異常は無いか
 - ☐ 矢道に障害物は無いか

- 参加校の的場側のデバイスを通じ、例に従って的確の確認を行ってください。その際、参加校には実際に的場側のデバイスを持っ的場に出てもらい、各的を正面より映させて確認してください。この時、的場側用映像機器は全ての的を映せなくなるため、射場用映像機器が全ての的を映せていない場合はその画角を調整させることを忘れないようにすること。

特に確認すべきこと

- ☐ 各的が適格な的であるか
- ☐ 既に刺さっている矢がないか
- ☐ 的の高さ、傾きは適切か
- ☐ 的（的紙、的枠、候串等）に不正が無い

例) 参加校：「大前です」

審判員：「はい」

...

参加校「落です」

審判員「はい、結構です」

- 参加校が競技開始時間までに Zoom に接続しないなど、選手確認ができない場合、その選手の出場は原則として認められません。
- 記録処理は審判員の記録用紙に依りますが、確認のため、必ず参加校にも記録をつけさせてください。

PART6 個人戦予選審判 競技の進め方

競技開始時刻になったら以下の流れに従い、競技を実施してください。

【はじめに】

- 参加校に Zoom レコーディングの同意を取り、レコーディングを開始してください。

【一次予選を行うとき】

- 各参加校に以下の【例】のように、立順と選手番号（個人戦予選記録用紙に記載されている番号）を通告させてください。通告された立順が「個人戦予選記録用紙」の順になっていることを確認してください。

参加校通告【例】

「学連大学男子個人戦一次予選 1 立目 大前：1 番全日一郎選手、式的：2 番全日二郎選手、中：3 番全日三郎選手、落前：4 番全日四郎選手、落：5 番全日五郎選手です。」

記録用紙に記載されていない選手が通告された場合は、各参加校に確認を取ってください。
問題なければ、行射に移行します。

- 照合が完了次第、一次予選【男子：一手、女子：4 射】を開始する。途中で一次予選敗退が決定しても、すべて引くこと（決定退場を認めない）。※男子の一次予選は一手のみなので注意すること
- 射場進行を行ってください。以下の通り通告してください。

競技実施中は、参加校のうち 1 名以上を Zoom の前に常駐させてください。必要に応じて審判員の発言を会場内に伝えること。

1. 「本座にお進みください」と通告する（選手が本座に進む）
2. 「射位にお入り下さい」と通告する（選手が射位に進む）
3. 大前の胴造りが終了した時点で、「行射を開始して下さい」と通告する（審判員による通告以前に取り掛けを行った選手は失格とする）
4. 行射を開始する（個人戦予選は制限時間の計測は不要です）。

- 競技中は、以下の点に注意してください。

□ 的が傾いていないか／倒れていないか

- 的が傾いた／倒れた場合、行射を一時中断してください。

的が傾いた／倒れた時点の的中を必ず確認したのち、的を立て直してください。

※的中確認前に絶対に矢を抜かないでください。確認前に矢に触れた場合、その立における該当の的の以前の的中は全て無効となります。

的を立て直し次第、行射を再開してください。

- その他、競技中及び競技の合間における的の交換は審判員の判断に依ります。

- ☐ 弦切れが起こっていないか
- ☐ その他、異常事態が発生していないか
 - 異常事態により選手に影響が及んだと考えられる場合（鳥やハチ・ボールが選手を直撃した、など）は、その矢に限り引き直しを認めます。判断がつかない場合は、電話等で連絡してください。
- ☐ 不明矢が生じていないか
 - 不明矢が生じた場合、必ず抜く前に確認してください。
- ☐ 地震が発生した場合の対応は、**PART 7**をご参照ください。
- ☐ その他、判断しがたいことが発生した場合は、電話でお知らせください。

- 的中記録を記録用紙に黒ボールペンを用いて記入してください。記録用紙の記入は別紙「個人戦予選記録用紙記入例」を参照してください。修正箇所は赤ボールペンで二重線を引いて消した上で、赤ボールペンで正しい情報を記入してください。修正液は使用しないでください。
- 個人戦予選は、行射ペースが早いため、記録が追い付かない可能性があります。下記の通り、立の選手全員の行射終了後、的中確認前に記録の確認を行うため、記録が取り切れなくても構いません。
- **重要** 立の選手全員の行射終了後、以下の【例】のように、**的中確認を行う前に参加校から**
的中（○・×）の報告を受けてください。記録報告を通じて、選手の的中を記録用紙に黒ボールペンで記入してください。
- 参加校「学連大学男子個人戦一次予選 1 立目
大前：全日一郎選手は○○、式的：全日二郎選手は××、中：全日三郎選手は×○、
落前：全日四郎選手は○×、落：全日五郎選手は××です。」
- 記録報告が完了したのち、Zoom を利用して、以下のように的中確認を行ってください。
各参加校が審判員を介在せずに的中確認を終了させることが無いようにしてください。

自身がつけた記録用紙と異なる場合は、必ず**矢を抜く前に**確認してください。

的中確認の方法

- ① 的中報告を受け（上述）、記録を全て記入する
- ② 射場用映像機器が全ての的中を映せているか確認する。映せていなければ画角を調整させる。
- ③ Zoom を通して射場の参加校のものに「的中確認お願いします」等の声をかけ、参加校の看的要員に的中場に入ってもらう。
- ④ 参加校の看的要員が大前から順に各的を正面から映しながら「大前 3 中」のように的中を読み上げるので、実際に的中数と記録を確認する。問題なければ「はい」

と返事する。的の中が合わない、枠に近い矢が見えにくい等あれば必ず確認し、もし記録の修正の必要があれば上記の通りに修正する。(修正液は使わない！)

⑤ 落の的の確認が終了すれば、「はい、結構です。矢取りお願いします」と伝える。

- もし的中確認中に通信が不安定となりの的の確認ができなくなった場合は、通信が回復次第、確認できなくなった的に戻らせて確認を再開すること。余計な混乱を防ぐため、通信が不安定となっている間に「はい」「結構です」等を発声しないこと。

個人戦決勝出場者は審判員の記録用紙で決定します。間違いのないようにお願いします。

- 各大学すべての選手が完了するまで一次予選を繰り返します。
- 一次予選終了後、一次予選通過者を、別紙「個人戦予選記録用紙記入例」を参照して、記録用紙の所定欄（一次予選記録欄と二次予選記録欄の間）に矢印で記入してください。

インカレ

【二次予選を行うとき】

- 一次予選通過者のみ二次予選を行ってください（一次予選通過者がいない場合、個人戦予選は終了となります）。
- 一次予選で敗退した選手を除き、個人戦予選記録用紙に記載されている順番で新しい立を組んで行射してください。
- 一次予選開始時と同様の方式で、的の確認を行ってください。
- 各参加校に以下の【例】のように、立順と選手番号（個人戦予選記録用紙に記載されている番号）を通告させてください。通告された立順が「個人戦予選記録用紙」の順になっていることを確認してください。

参加校通告【例】

「学連大学男子個人戦二次予選 1 立目 大前：1 番全日一郎選手、式的：3 番全日三郎選手、中：4 番全日四郎選手、落前：7 番全日七郎選手、落：9 番全日九郎選手です。」

一次予選を通過しなかった選手や記録用紙に記載されていない選手が通告された場合は、各参加校に確認を取ってください。

問題なければ、行射に移行します。

- 二次予選【男子：4 射、女子：一手】を開始する。途中で二次予選敗退が決定しても、すべて引くこと（決定退場を認めない）。※女子の二次予選は一手のみなので注意すること
- 競技中の進行は、一次予選と同じです。

【個人戦予選すべての行射が完了したとき】

- すべての行射が完了後、参加校と記録を相互に確認してください。
特に以下の点を確認してください。
 - ☐ 的中（○・×）が正しく記録されているか
 - ☐ 的中合計数が正しいか
 - ☐ 二次予選を通過した選手が正しいか
- 記録に問題が無いことが確認されたことをもって、個人戦予選は終了となります。
- Zoom のレコーディングを終了し、参加校に以下の内容を通告してください。
 - ☐ 以上で個人戦予選は終了となります。
 - ☐ 参加校の皆様は、学連に記録を送信する必要はありません（記録は審判員が学連に送信します）。
 - ☐ 個人戦予選の記録用紙は、捨てずに大会終了後まで必ず各大学で保存してください。

→記録は、この後、Google form を経由して学連に送信していただきます。
（詳細は PART7 をご覧ください。）

PART7 審判員 記録送信

- 記録送信完了をもって、個人戦予選は終了となります。
- 全ての参加者が欠席し予選が行われなかった場合においても、全ての参加者の欄に「欠」と記入し、審判員の情報なども全て記入の上送信してください。使用的数など、書けない箇所は「中止」などと書いてください。
- **予選終了後、すぐに記録を送信**していただきますようお願いいたします。
競技開始時刻から相当時間経過しても記録が送信されない場合、電話またはメールで確認いたしますので、ご対応ください。
- フォームで提出していただいた記録用紙に不備が見受けられた場合、連盟から審判員の方に電話し、フォームの再提出を要請いたします。**予選終了後も当日中はお手元に携帯電話及び記録用紙をご用意ください。**
- 作成した録画（レコーディング）に関しては、一律に学連側に提出を求めることはしませんが、競技校や立合校より異議申し立てがあった場合に検証材料として使用するために提出を求めることがありますので、決勝進出者確定まで保存しておいてください。
- 作成した録画は、選手の顔等も映っている個人情報となります。決して学連以外の第三者に提供しないでください。また、決勝進出者確定後は速やかに適切な方法で消去してください。

§ 1 記録の確認

- 記録用紙の以下の点を確認してください。P5 に記入例がございますのでご参照ください。

【個人戦予選記録用紙】

- ☐ 黒ボールペン（訂正箇所については赤ボールペン）で記入されている。（シャープペンシル等は不可）
- ☐ 地区名、大学名が印字されている。
- ☐ 弓道場及び的数が記入されている。
- ☐ 出場したすべての選手の一次予選の的中（○・×）・または欠席を示す「欠」の字が記入されている。
- ☐ 一次予選を通過した選手のみ、二次予選の的中（○・×）が記入されている。
- ☐ 一次予選を通過した選手のみ、通過欄に矢印が記入されている。
- ☐ 二次予選を通過した選手のみ、通過欄に矢印が記入されている。
- ☐ 二次予選を通過した選手の**選手番号**が用紙下部の所定欄に記載されている。
- ☐ 的中に訂正がある場合、**赤ボールペンで二重線を引き、正しい的中が赤で記入**されている。
- ☐ （上記に付随して）訂正に修正液を用いていない。
- ☐ 審判員の氏名・所属大学・メールアドレス・電話番号が記入されている。

§ 2 記録の送信

- 以下の Google form にアクセスして記録を送信してください。
複数の大学を担当される場合は、参加校 1 校ごとにご送信ください。

【男子】 記録送信フォーム



【女子】 記録送信フォーム



記録送信完了を持って個人戦予選の
審判員業務は完了となります。

予選運営へのご協力、誠にありがとうございました。

PART8 FAQ

- 疑問点が生じた場合は、以下をご参照ください。なお不明な点については、メールでお問い合わせください。
- Q 1 急遽、審判員業務を行うことが難しくなった。
- A 1 可能な限り代理の者を学内で立ててください。それが難しい場合、なるべく速やかにメールでご連絡ください。原則地区学生弓道連盟内で代理を立てていただきます。
- Q 2 参加校から、予選開始時刻に遅れる旨の連絡があった。
- A 2 正当な事由（交通障害、会場側（大学や公共施設）からの制限、自然災害など）に基づく場合、参加校と協議の上、予選開始時刻を遅らせてください。予選開始時刻を遅らせる場合は、メールでご連絡ください。判断がつかない場合やその日のうちに予選を実施することができなくなった場合は、メールまたは電話でご連絡ください。
- Q 3 Wi-fi 等のトラブルでうまく Zoom に接続できない。
- A 3 スマートフォンのテザリングなどで対応していただきますようお願いいたします。どうしても、通信がうまくいかないときは、行射の様子を録画するように、必ず参加校に通告してください。
- Q 4 レコーディングがうまくできない。
- A 4 zoom の接続はうまくいっているがレコーディングがうまくできない場合、他のスマホやデジタルカメラ等を使用しても構いませんので、競技校に連絡して録画するように伝えて下さい。どうしても射場・的場双方の録画が難しいようであれば、射場側の録画を優先して下さい。
- Q 5 予選開催中に地震が発生した。
- A 5 以下の通り、対応してください。

2026 年度インカレ大会個人戦予選における地震発生時の対応について

1. 行射に関する指針

- ・携帯電話などを介して緊急地震速報を受信した場合、あるいは実際に揺れを感じた場合は、審判員の指示で行射を中止する。安全のため、会に入っている場合でも必ず引き戻すこと。
- ・打起し以後に審判員の行射中止の指示があった場合には、その矢は引き直しの対象となる。打起しとは、本弭が左膝から離れた状態を指す。
- ・引き直しとなった矢は矢取りをしないので、予備矢を会場に持ってくる。

2. 避難などの指針

震度 3 以下の場合

審判員の指示で行射中止。その場に待機し、揺れが収まり次第、審判員の指示で行射再開。

震度 4 の場合

審判員の指示で行射中止。その場に待機し、揺れが収まり、施設の安全を確認し次第、審判員の指示で行射再開。

震度 5 弱以上の場合

審判員の指示で行射中止。その場に待機し、揺れが収まり次第、安全な場所に避難。安全が確認でき次第、審判員に報告。状況に応じて予選を中止する。その後、決勝の実施に影響のない範囲で予選が実施できる場合は、予選のやり直しを認める。

PART9 付録：レコーディングに関する補足

● レコーディングに関する肖像権等の取り扱いについて

昨年度予選より、審判員に一律で zoom のレコーディングを要請しています。その目的は以下の通りです。

- ・行射の様子と射場の様子を同時に記録することで、予選の様子を後日に検証可能にする。
- ・競技校や立合校から異議申し立てがあった場合に、判断材料の一つとすることで、より公平な判断を行うことができるようにする。

学連は、以上の目的以外のために録画を使用することは一切ありません。（広報活動も含め、学連が学連外に録画の全てまたは一部を公開・配布・販売することはありません。）

さらに、録画を作成した審判員については、以下のことを遵守してください。

- ・作成した録画には競技者の顔と名前、学年が含まれており、個人情報として適切な扱いをするべきものであることを認識する。
- ・作成した録画を、適切な方法で保存し、いたずらにそのコピーを作成しない。
- ・学連側から要請があった場合にのみそのデータを学連に送信する。そのほかのいかなる第三者にも録画を提供しない。（同じ大学の人を含め、一切他人と共有しないでください。）
- ・決勝進出者確定後は速やかに録画ファイルを消去してください。

以上の事柄が遵守されず、第三者に録画が共有されていると発覚した場合、当該の大学には連盟規約に基づく処分を課す場合があります。